

富士養鰯場だより

第261号
令和7年5月号



静岡県水産・海洋技術研究所富士養鰯場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/>

（目次）大型魚向けニジマス新品種における現場実証試験（続報）

令和6年のサケ科魚類・海面養殖の生産実態・魚病被害のアンケート調査結果
人事異動・転入者紹介・令和7年度業務紹介
第36回にじます祭りが開催されました

大型魚向けニジマス新品種における現場実証試験（続報）

近年は、生食用等で活用されるニジマス大型魚の需要が高まっています。そのため、育成期間を短くすることで出荷量の増加が可能となれば、静岡県のニジマス大型魚をより多くの方にお届けできます。そこで、富士養鰯場では、大型ニジマス生産のための研究として、高成長の形質などを有する新品種である「LFM ドナ」の作出を行ってきました。この経緯や詳細については、富士養鰯場だより 258 号に掲載しています。



写真 新品種「LFM ドナ」

258 号の記事の中では、富士養鰯漁協の生産者に依頼した実証試験について報告をし、LFM ドナでは、従来品種に比べて体重約 250g から 2,500g 以上までの育成期間が 2 ～ 3 か月短縮できたことを示しました。今回は別の生産者で試験を行い、高成長形質の再現性が確認できるか調べましたので報告します。

方 法

富士養鰯漁協の生産者 1 社（水温 14℃）に、通常の生産業務と同様の方法で LFM ドナの飼育と、飼育中の給餌量や平均体重などの記録を依

頼しました。令和 5 年 9 月 25 日から令和 6 年 10 月 29 日（約 13 か月）までの飼育記録から、LFM ドナの平均体重の推移などを集計し、同じ生産者が育成した従来品種 2 ロットとの比較を行いました。

結 果

LFM ドナの飼育記録を表に記載しました。

表 LFM ドナの飼育記録

試 験 期 間		2023/9/25～10/29	
飼 育 日 数		400	
池入れ	尾数	9,056	
	重量 (kg)	163	
	平均体重(g)	18	
取り上げ	尾数	6,225	
	重量 (kg)	10,050	
	平均体重(g)	1,614	
死 亡	尾数	1,919	
	重量 (kg)	941	
間引き	尾数	912	
	重量 (kg)	45	
尾数歩留り率(%)		69	
補正増重量(トン)		10.9	
給餌量 (トン)		15.1	
飼料効率(%)		72	

試験開始時の LFM ドナの平均体重は 18g で、約 13 か月の飼育で平均体重 1,614g にまで成長しました。開始時に 9,056 尾だった尾数は、間引いた分も含めて終了時には 6,225 尾となり、

歩留まりは69%となりました。また、給餌量15.1トンに対し、増重量は10.8トンであり、飼料効率は72%でした。

次に、LFM ドナと従来品種2ロットとの成長の比較を行いました(図)。1,000gに達するまでの育成月数は、LFM ドナは10～11か月、従来品種は13～14か月であり、前回の試験と同様に、LFM ドナは従来品種と比べて育成期間を2～4か月短縮できることが示され、高成長形質の再現性が確認できました。

今回と258号に記載の結果から、生産者2社でLFM ドナの高成長形質の再現性が確認できま

した。なお、今回は示していませんが、LFM ドナの飼料効率は従来品種と比べ、大きな差がないことが別の試験で明らかになっており、LFM ドナの特徴である高い成長率は、1回あたりの摂餌量が多いことによるものと考えられます。これらのことは、実際の生産規模でも、LFM ドナに十分量の給餌をすることで、育成期間の短縮が期待できることを示しています。これからも、ニジマス大型魚の生産量増加を目指し、LFM ドナの現場実装に向けた取組をさらに進めていきたいと思います。(高田伸二)

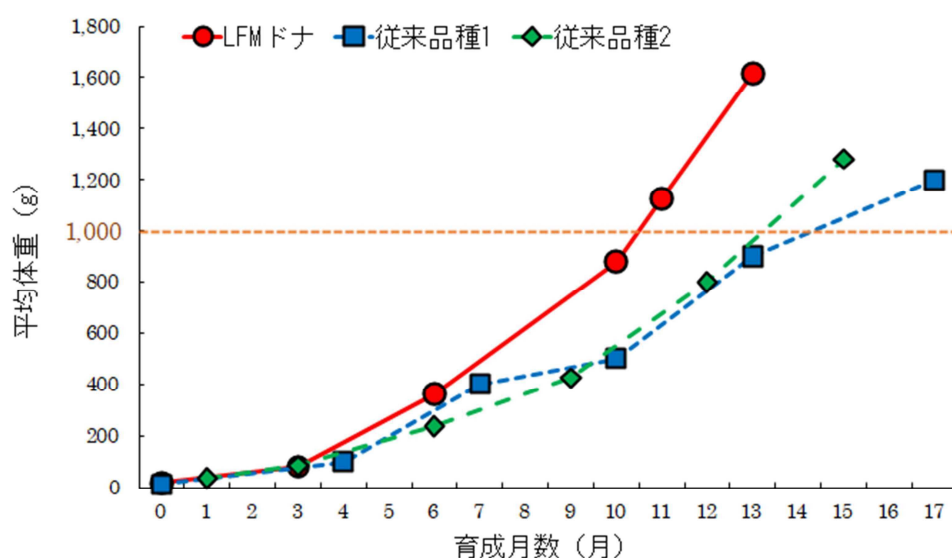


図 LFM ドナと従来品種の成長比較

令和6年のサケ科魚類・海面養殖の 生産実態・魚病被害のアンケート調査結果

静岡県内のサケ科魚類及び海産魚の養殖業者の方々に御協力いただいた令和6年の生産実態及び魚病被害のアンケート調査結果を取りまとめましたので、概要を報告します。

方 法

県内でサケ科魚類及び海産魚の養殖業を営む経営体を対象にアンケートを配付し、各魚種魚種の生産量と生産額、魚種別及び疾病別の魚病被害量と被害額を調査しました。本調査の対象期間は令和6年1月1日～12月31日の1年間です。

結 果

1 サケ科魚類 (表1)

- (1) 経営体数: 延べ経営体数は49軒、実経営体数は32軒でした。
- (2) 生産量: 生産量は1,503トンで、前年比124%となりました。魚種別に見ると、ニジマスは1,413トンで前年比123%、アマゴは62トンで同182%、イワナは14トンで同108%と全ての魚種で増加しました。
- (3) 魚病被害状況: 魚病被害量は28トンと前年比47%となりました。魚種別に見ると、ニジ

マスが 19 トンと最も多く、ニジマス生産量の 2 %を占めました。

魚種別の主な発生疾病は、ニジマスで IHN

および細菌性冷水病で、アマゴでは IHN 及びせっそう病、イワナではせっそう病でした。

表 1 サケ科魚類のアンケート調査結果

魚種	R6					(参考)R5		
	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病			経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病 被害量 (トン)
			被害量 (トン)	生産量に 対する 割合 (%)	主な疾病			
ニジマス	20	1,413	22	2	IHN、冷水病	20	1,185	57.4
ギンザケ	1	4	0	0		1	5	0.0
アマゴ	17	62	8	14	せっそう病	17	30	0.9
イワナ	5	14	1	6	せっそう病	5	13	0.6
その他	6	11	0	0		6	14	0.0
合計	49(29)※	1,503	32	2.1		49(32)※	1,246	59

※経営体数合計のカッコは実経営体数

2 海産魚 (表 2)

(1)経営体数：延べ経営体数は 29 軒、実経営体数は 16 軒でした。

(2)生産量：生産量は 1,925 トンで、前年比では 96%となりました。魚種別に見ると、マアジは 234 トンで前年比 103%、マダイは 1,466 トンで同 95%、ブリは 190 トンで同 100%と前年並であった一方、シマアジは 6 トンで同 70%と大きく減少しました。

(3)魚病被害状況：魚病被害量は 118 トンで、前年比 268%と大きく増加しました。魚種別に見ると、マダイが 77 トンと最も多く、生産量の 5 %を占めた他、マアジで 39 トンとなり同

13%、シマアジで 2 トンとなり同 33%、ブリで 1 トンとなり同 0 %をそれぞれ占めました。

魚種別の主な発生疾病は、マアジで連鎖球菌症およびビブリオ病、マダイで連鎖球菌症およびエドワジエラ症、ブリ、シマアジで連鎖球菌症でした。特にマダイでは連鎖球菌症の被害が例年以上に多く、これは夏場の高水温に起因すると考えられました。これらの結果を基に、少しでも魚病被害を減らすための取組を、養殖業者の皆様と進めていきます。

なお、本アンケート結果の詳細は、静岡県水産技術研究所「令和 6 年度事業報告」に掲載します。
(富山皓介)

表 2 海産魚のアンケート調査結果

魚種	R6					(参考)R5		
	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病			経営体数 (軒)	生産量 (トン)	魚病 被害量 (トン)
			被害量 (トン)	生産量に 対する 割合 (%)	主な疾病			
マアジ	7	234	39	17	連鎖球菌症(α I、III)、ビブリオ病	7	227	28
マダイ	10	1,466	77	5	連鎖球菌症(β)、エドワジエラ症	11	1,539	4
ブリ	2	190	1	0	連鎖球菌症(α III)	2	190	1
シマアジ	1	6	2	33	連鎖球菌症(α III)	3	9	11
海面その他	2	10	0	0		2	23	0
陸上ヒラメ	2	15	0	0		2	14	0
陸上その他	5	4	0	0		5	3	0
合計	29(14)※	1,924	118	6		33(16)※	2,004	44

※経営体数合計のカッコは実経営体数

人事異動

(令和7年4月1日付け)

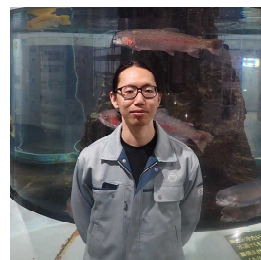
(転出)	主査	佐野雅道	→	企業局東部事務所	主査
	主査	佐藤孝幸	→	水産振興課	主査
	研究員	瀧川智人	→	水産資源課	主任
(転入)	主査	渡辺智明	←	沼津財務事務所	主査
	主任	永倉靖大	←	水産資源課	主任
	研究員	安藤大輝	←	新規採用	

転入者・自己紹介

4月から普及指導員として着任した永倉靖大（ながくらやすひろ）です。

3月までは県庁の水産資源課で許可漁業の事務手続きや漁業調整等を行っていましたが、このたび、晴れて現場（研究所）勤務となりました。

とはいえ、当场勤務は初めてのことなので、不安もありますが、業界関係者の皆様に教えてもらいながら、お役に立てるように精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



このたび、新規採用職員として配属された安藤大輝（あんどひろき）です。研究員として主に魚病や飼育に関する業務を担当いたします。

子供の頃から魚の飼育に親しんできたこともあり、担当業務の中で飼育に関われることを大変嬉しく感じております。養鰯については右も左もわからない状態ですが、ひとつひとつ学びながら、少しでも早く皆様のお役に立てるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

はじめまして。沼津財務事務所から異動してまいりました渡辺智明（わたなべともあき）と申します。こちらでは総務事務を担当することになりました。

富士宮出身ですが、養鰯場や鰯については知らないことばかりです。皆様に教えていただきながら、知識をもっと深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 業務紹介

職		氏名	主な担当業務
場長		飯田益生	富士養鰯場業務の総括、全国協議会
総務	主査	渡辺智明	予算・庶務、観覧業務、庁舎等の保守管理
研究科	主任研究員	高田伸二	試験研究の企画調整 試験研究（新品種開発）
	研究員	安藤大輝	試験研究（魚病）
普及班	主任 (普及指導員)	永倉靖大	普及指導の企画調整、広報 普及指導（地域水産業の振興）
	主任 (普及指導員)	富山皓介	普及指導（魚類防疫対策、内水面漁業、 生産業務指導）
会計年度採用職員		植松久男	試験研究補助、飼育管理、場内管理
会計年度採用職員		望月克敏	試験研究補助、飼育管理、場内管理

トピックス

第 36 回にじます祭りが開催されました

令和 7 年 3 月 2 日、「第 36 回にじます祭り」が富士山浅間大社に隣接する神田川ふれあい広場にて開催されました。本イベントは富士養鱒漁業協同組合を中心とした市内関係者が主体となり、例年 3 月の第一日曜日に開催されています。

祭りではます釣り大会、にじます放流会が開催されたほか、ニジマスを用いた屋台が沢山並びました。また、本年は新たに「キングオブクッキング鱒ター」が開催されました。これは様々なニジマス料理の中から、最も美味しいニジマス料理を決める大会で、出場者は実際に屋台で料理を提供し、それを食べた来場者の投票により

グランプリが決まるというものです。初代グランプリには富士宮やきそばで有名な「うるおいてい」が考案した「紅富士ネギネギ」が輝きました。その他にも、ニジマスを使用したジェラートや手鞠寿司などの魅力的な料理が並び、会場の注目を集めていました。

それ以外でも、例年行われているニジマス重量当てクイズやスタンプラリーなど、来場したご家族全員が楽しめる企画が多く開かれ、大盛況のお祭りとなりました。令和 8 年も同時期に開催されるので、是非会場までお越しください。
(佐藤孝幸)



第 36 回にじます祭の様子

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量（降水日数） ：mm（日）		湧水量：万トン/日		月	降水量（降水日数） ：mm（日）		湧水量：万トン/日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*		今年	過去平均*	今年	過去平均*
11	220(8)	116(7)	7.48	6.44	2	11(3)	113(9)	2.56	2.93
12	0(0)	98(6)	5.42	4.83	3	120(10)	224(11)	2.27	3.35
1	40(5)	52(6)	3.52	3.57	4	234(17)	253(11)	3.16	4.28

* 前年以前の20年間平均値

日誌

令和6年11月	令和6年12月	令和7年1月
毎週水曜 沼津駐在 5日 バイテク魚作出指導（場内） 6日 業務連絡会分場長会議（Web） 6-13日 養殖衛生管理技術者養成研修（Web） 8日 しずか認証定期監査（市内） 12日 ふじのくに奨励賞選考委員会（静岡） 13日 水産研究発表会（焼津） 18日 漁業者交流大会（焼津） 20日 バイテク魚作出指導（場内） 21日 普及月例会（焼津） 26日 バイテク魚作出指導（場内） 27日 市食育事業出前授業（市内） 28日 紅富士麻酔選別作業（場内）	4-5日 魚病症例研究会（三重） 6日 業務連絡会分場長会議（Web） 6日 養鱒研修会（市内） 12日 研報編集委員会（Web） 13日 紅富士革新プロジェクト（市内） 17日 紅富士麻酔選別作業（市内） 19日 普及月例会（焼津） 24日 バイテク魚作出指導（場内） 24日 県かん水協会役員会（沼津）	7日 バイテク魚作出指導（場内） 9日 業務連絡会分場長会議（Web） 16日 養殖技術講習会（山梨） 16日 普及月例会（Web） 21日 ふじのくに奨励賞表彰（静岡） 22日 IoT機器導入支援（島田） 28日 にじます祭実行委員会（市内） 30日 輸入水産動物着地検査（県内） 30日 養鱒協運営委員会（Web） 31日 河川調査・IoT機器導入支援（島田）
令和7年2月	令和7年3月	令和7年4月
5-7日 アユ資源研究部会（Web） 6日 業務連絡会分場長会議（Web） 12日 内浦湾採泥調査（沼津） 13日 技術連絡協議会（焼津） 14日 全国湖沼河川養殖研究会運営委員会（Web） 18日 全国水産業関係研究開発推進会議（Web） 18日 紅富士麻酔選別作業（市内） 19日 地域水産試験研究振興協議会（Web） 26日 普及月例会（焼津） 27日 紅富士麻酔選別作業（場内） 28日 魚類防疫士研修会（Web）	2日 にじます祭（市内） 3日 普及課題設定協議会（Web） 6日 業務連絡会分場長会議（Web） 11日 紅富士革新プロジェクト（市内） 12日 富士養鱒漁協組合資格委員会（市内） 17日 養殖生産物安全対策検討会（静岡） 17日 魚病対策委員会（静岡） 19日 全国養殖衛生推進会議（Web） 19日 遺伝子安全委員会（Web） 25日 にじます祭実行委員会（市内）	1日 辞令交付式（焼津） 4日 業務連絡会分場長会議（焼津） 15日 東部危機管理連絡会議（Web） 15日 普及月例会（焼津） 18日 県かん水協会役員会（沼津） 23-25日 新規採用職員研修（静岡） 24日 水産事業概要説明会（Web）
<視察見学対応> 11/11 四街道市立四街道中（42名）、11/15 御殿場市立御殿場小（180名）、 12/11 焼津水産高校栽培漁業科（41名）		